少子高齢社会に生きる！

鳥羽市長　小竹　篤

自治会連合会 50 周年、おめでとうございます。
これまで歴史を刻んで来られた先輩諸氏に心から敬意を表します。
ところで、民間の「人口戦略会議」は、2024 年に全国の自治体の「持続可能性」について分析しました。基本的には「2020 年から 2050 年までの 30 年間に若年女性人口（20 歳から 39 歳）が 50%以上減少すると推計される自治体」を「消滅可能性自治体」と定義しています。メディアが大きく取り上げて、話題になりました。
三重県では、29 市町中 12 市町がこの「消滅可能性都市」として評価されています。鳥羽市もその中に含まれているのは、ご承知の通りですが、特筆すべきは、鳥羽市は「若年女性（20 歳から 39 歳）人口減少率が悪化」しているとして、消滅可能性自治体の中でも、状況は厳しいとされています。

近隣市の状況と比較して紹介します。

鳥羽市・・・消滅可能性自治体（若年女性人口減少率が悪化）

志摩市・・・消滅可能性自治体（若年女性人口減少率が改善）

伊勢市・・・その他（消滅可能性自治体を脱却）

因みに、昨年度の鳥羽市の新生児（0 歳児）は 42 名という衝撃的な数字になっています。鳥羽市は、今まさに待ったなし！　新たな施策を打たなければ、人口減は加速します。
そんな中で、各地域で各住民がどのように「町ぐらし」を維持していくのかが大きなテーマです。それぞれの町内会・自治会にお願いする部分が年々、大きくなってきています。
今年５月には、鳥羽市自治会連合会様と、「災害時における連携基本協定」を結ばせていただきました。「地域防災力の強化」は、最重要課題です。自助、共助、公助の視点を大事にして取り組んでまいります。
また、高齢化に伴う「公共交通の維持」「医療格差の是正」「空き家対策」「公的施設の集中」など、これから取り組むべき課題は山積しておりますが、皆様のご理解とご協力をいただき、誠実に向き合っていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域と共に輝くまちづくりを

鳥羽市議会　議長　河村　孝

鳥羽市自治会連合会創立 50 周年を迎えられ、ここに記念誌を刊行されますことを心からお祝い申し上げます。

また、これまで 50 年の長きにわたり、青少年の健全育成、防犯、防災など様々な活動を通して、地域社会の発展のためご尽力を賜っておりますこと深く敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

近年、人々のライフスタイルや価値観の多様化、少子高齢化を伴う核家族化の進行により、地域の住民同士の繋がりが薄れ、独り暮らしの高齢者だけでなく、若者など様々な世代の社会的孤立が広がっています。そのことがまた、本市のまちづくりにとって大きな課題となっています。

今後、地域の課題を解決し、安全・安心で持続可能な社会の構築には、行政の力だけでなく地域の力がますます重要になり、今一層の連携が必要になってきます。

市議会といたしましては、議員と意見交換を行う「ＴＯＢＡミライトーク」の開催や、市議会の運営に関する助言や提案をいただく「鳥羽市議会サポーター制度」などの活動を通じて市民との対話を重視した取組みを行ってまいりました。皆様と一緒に住みよい市になるよう、今後一層の努力を続けてまいる所存でございます。

創立 50 周年を契機として、鳥羽市自治会連合会が今後ますますの飛躍を遂げられ、住民自治振興の拠点として、その真価を遺憾なく発揮されますことをご期待申し上げる次第であります。

結びに、今日まで自治会運営にあたられました皆様方に心から感謝申し上げますと共に、皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

令和6年度 TOBA ミライトークの様子

とば市議会だより わたしの議会。 第 190 号

共に築こう　自治会活動

三重県議会議員　野村　保夫

鳥羽市自治会連合会が 50 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。市民の一人として、これまでの歩みに深い敬意を表します。

いま鳥羽市には 46 の町内会・自治会があり、それぞれが会長さんを中心に地域のために活動されています。50 年前を振り返りますと、高丘町や大明東町・大明西町はまだ開発の途中で、私の住む相差町でも町内会はなく、漁協の組合長が地域代表を兼ねていたのを覚えています。そうした時代に、地域の代表が集まって課題を話し合い、力を合わせる場ができたことは、本当に大きな一歩だったと思います。

いまでは、防災・防犯の取り組み、ゴミ集積場の管理やルールづくり、「広報とば」の配布、町内放送、祭りや敬老会の開催、地域要望の窓口など、自治会の活動はますます広がっています。一方で、地域の規模や年齢層、働く環境の違い、さらには未加入の方や外国の方の増加など、新しい課題も生まれています。こうした時こそ、連合会が力を発揮し、よい事例を共有したり、失敗を未然に防いだりと、全体で支え合う仕組みが大切になってくると思います。

これから高齢化や人口減少がさらに進むと予測されています。だからこそ、頼りになるのは身近な隣人や地域のつながりです。自治会・町内会、そして連合会の存在は、今後ますます大きな意味を持ってくるでしょう。ぜひ未加入の方にも参加を呼びかけ、みんなで協力し合い、鳥羽市の未来をより明るく、魅力ある地域にしていければと思います。

令和7年度　鳥羽市自治会連合会での挨拶

創立 50 周年を祝して

三重県自治会連合会　会長　水野　克則

鳥羽市自治会連合会が創立 50 周年という記念すべき節目の年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

また、貴会におかれましては、平素より自治会活動における地域を代表して、防災、防犯、地域福祉、環境など、幅広い分野にわたって多大なるご尽力をいただいておりますことに敬意を表するところでございます。

さて、近年、本格的な人口減少と急速な高齢化の進展に加え、住民意識の多様化や価値観の変化、互いに干渉を好まないという時代背景などの要因が重なり、地域社会での連携や人と人との絆の希薄化が顕著となってきております。このような社会情勢から、自治会の運営が成り立たないのではないかとの懸念の声も上がってきております。

そのような中、三重県にも多大な被害をもたらすことが想定される南海トラフ地震について、本年９月、政府の地震調査委員会が、マグニチュード８～９級の巨大地震の発生確率を見直し、今後 30 年以内の発生確率が 60～90％程度以上になると発表しました。改めて、いつ巨大地震が発生してもおかしくないという危機感を感じたところでございます。

災害大国である我が国において、災害が起きるたびに、地域の絆の重要性が指摘され、また、必要とされてまいりました。現に東日本大震災や令和６年元日に発生した能登半島地震等においては、自治会が大きな役割を発揮しており、災害への備えと地域住民の安全、安心の確保のためには、自治会の活性化は不可欠であると考えております。

当連合会として、貴会や各市町の自治会連合会と連携を図り、地域住民に対して自治会の重要性を強く発信するとともに、知恵を出し合いながら、地域の絆が強化できるよう、時代に即した自治会のあり方について、広域的な見地から検討を進めてまいりますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々の御発展と、これからも住民同士が強い絆で結ばれ続けることを心よりお祈り申し上げます。

令和7年度 三重県自治会連合会定期総会

世界平和を願う

鳥羽市自治会連合会元会長　傍島　寛

鳥羽市自治会連合会結成 50 周年を迎えられたことを、嬉しく思いお祝い申し上げます。

贄（にえ）遺跡（安楽島町）で発掘された 5,000 年前の縄文土器を洗浄する機会に恵まれ、最大でも７～８cm 程度の破片ですが、表面に細い線や太い線を巧みに使い、様々な模様が精巧に幾何学的で魅力的な模様が描かれており、見ていても飽きることがありませんでした。

縄文時代のことは多くの方が知ってのとおり、約一万七千年続き、その間争いごとがなかった時代と言われています。争いがないため武器を作る必要性がなく、労力を土器や土偶、勾玉等に注ぎ、火炎土器など、想像力豊かな芸術的な土器が数多く創出された時代と言われています。

世界ではウクライナや中東等で争いが絶えず、多くの尊い人命が失われています。武器を粘土に持ち替えたなら、悲惨な争いが無くなるのではないかと、縄文土器を眺めつつ思ったものです。

自治会連合会が行政に協力し、市民が心豊かに暮らし長く住み続けられ、明るく希望が持てる鳥羽市に尽力を注ぎご活躍され、又、町内会、自治会があって良かった、頼りになると、住民に喜ばれる組織が継続されることを願って、連合会結成 50 周年のお祝いとさせていただきます。

平成 26 年度 長野県飯島町への視察研修　千人塚公園にて記念撮影

市民と行政が一体となった地域づくり

鳥羽市自治会連合会前会長　中村　幸照

鳥羽市自治会連合会結成50周年（昭和51年２月）を迎え、心からお慶び申し上げます。鳥羽市自治会連合会が半世紀という長い歳月を経て、この日を迎えることができたのも、ひとえに、諸先輩方はじめ、町内会・自治会に関わる皆様一人ひとりの地道な努力の賜物と心より感謝申し上げます。

私は自治会連合会の会長として、平成29年５月から令和３年５月まで勤めさせていただきました。その間、「地域、市民（住民）と行政をつなぐ橋渡し役」そして、「住民と行政が一体となった地域づくりの担い手」でした。地域における自治活動のほか、市政情報の周知や住民説明会の開催など様々な業務を積極的に行い、「市民と行政が一体となった地域の発展」に貢献することを基本として活動を続けて参りました。

任期中に起きた、新型コロナウイルス感染症による「移動制限」は大きな打撃であり、たくさんの犠牲と困難を乗り越えてようやく日常へ向かっていますが、次の「非常時」に備える必要があると思います。

自然災害が頻発する今日において、町内会や自治会が築く「顔の見える近隣住民のつながり、人と人のつながり」は、地域の安全と支えあいを実現する上で、ますます重要な役割を果たしていると確信しております。先行き不透明なご時勢ですが、地域の中で育んできた「団結力」によって、どんな困難な問題に対しても乗り越える事ができると信じております。

結成50周年を機に、住民自治活動が市民及び行政にとって如何に重要であるかを改めて理解していただくとともに、鳥羽市自治会連合会の更なる発展と皆様方の益々のご活躍ご健勝をお祈り申し上げます。

平成29年度　京都市市民防災センター視察研修

平成29年度　三重県自治会連合会知事懇談会